

◆広域ごみ処理施設等検討委員会

栃木県佐野市みかもクリーンセンター視察

2月10日、広域ごみ処理施設等検討委員会（ふじみ野市・三芳町）は、焼却処理施設の選定にあたり佐野市みかもクリーンセンターを先進地視察しました。

現在、ホームページ上で、広域ごみ処理施設の基本計画の素案がパブリックコメントにかけられてい



佐野市みかもクリーンセンター

ます。今後、広域ごみ処理施設の具体的な選定に入っていきますが、昨年1月31日に視察した所沢市の東部クリーンセンターに続き、今回が2回目になります。

「みかもクリーンセンター」は、当地域で考えている焼却処理施設と同規模であることから、視察地選ばれました。

・ごみ焼却施設の規模

日量 128t/日

（当地域172t）

敷地面積約29,000平方メートル

・リサイクルプラザ

日量 22・6t/日

佐野市では、平成14年ダイオキシン類規制の強化に伴い、旧施設を稼働停止し、年間10億円かけて可燃ごみの全量焼却処理を民間施

設や近隣自治体に全量委託していました。新清掃センターの建設が緊急かつ重要な課題になっており、建設委員会、また市民代表による「新清掃センター建設市民100人委員会」も設置し、計画に着手した経緯があります。

焼却施設は、「熱分解ガス化溶融炉」で、他の3種の機種との比較検討の結果決定されました。その特徴は、

①高温で処理するため、ダイオキシン類を含めた有害物質の排出を抑えることができる。

②ごみのエネルギーを利用して焼却と灰溶融を一体化した効率的な処理を行う。施設がコンパクト。

③リサイクルに適したスラグ・鉄・アルミ回収ができ、最終処分量を減らすことが出来る。

一方で短所、課題としては、

◆農業体験農園

シンポジウムin横浜

2月4日、全国農業会議所主催、農林水産省後援による『農業体験農園シンポジウムin横浜』が横浜で開催されました。

農業体験農園とは、栽培の段階から地域住民である消費者が参加できる形態をとる農園。農業経営者が作付け計画の作成からはじまり、播種、植え付けや施肥・農薬散布の方法と時期、収穫期に至るまで細かく入園者に指導する、従来の市民農園とは違う市民参加型の農業です。このため、初心者であつても安心して農作業を行うことができるだけでなく、安全・

安心な農産物の栽培等を通じて、農業の理解促進に大きな役割を果たしています。

シンポジウムの第一部は、加藤



東京都園主会会長の加藤義松氏



熱分解ガス化溶融炉

①ごみの破碎が必須であり、トラブルの原因となる。
②プラスチックごみも可燃ごみであり、プラスチックの分別をすると、ごみ質が下がり、助燃料（灯油等使用）が増加する。などがあります。
ちなみに建設費用は、
・ごみ焼却施設 62億7千万円
・リサイクルプラザ 20億円
・維持管理費 8億3千万円
（平成19年度、職員人件費除く）